



朱一だより

京都市立朱雀第一小学校
Tel 841-3201
校長 林まゆみ
平成30年10月25日
特別号

【平成30年度前期「朱一いきいきアンケート」結果報】

9月末に保護者の皆様にご協力いただいた「前期・朱一いきいきアンケート」の結果について、ご報告いたします。アンケートは、児童数485枚をお配りし、452枚の回答をいただきました。回答率は、93.2%でした。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

今年度も、保護者の皆様にはご家庭での取組と子どもたちの様子を、教職員には学校の取組と子どもたちの様子を、そして子どもたちには現在の自分を振り返るアンケートを実施しました。全項目の結果を報告しますとともに、考察や今後の手立て等をお伝えいたします。

<保護者アンケート結果>



●家庭の取組について●	実現度 (%)			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来っていない
子どもが夢や希望をもつようになっている。	18.6	68.5	12.6	0.2
子どもが読書に親しむようになっている。	22.6	41.2	33.6	2.7
子どもがすすんで家庭学習をするようになっている。	12.2	51.8	34.5	1.6
子どもが友だちを大切にし、仲よくするようになっている。	37.4	59.3	3.1	0.2
子どものよさを認め、ほめるようになっている。	24.6	62.4	13.1	0
子どもが自分からすすんで挨拶するようになっている。	25.4	60.0	14.4	0.2
子どもがあがとうの気持ちを大切にするようになっている。	30.8	62.3	6.7	0.2
子どもが困った時、誰かに相談するようになっている。	25.0	68.8	5.8	0.4
子どもがきまりや約束を守るようにしている。	21.2	67.9	10.6	0.2
子どもに健康的な生活習慣がつくようになっている。	26.3	58.6	14.6	0.4
子どもが安全に気をつけて生活するようになっている。	32.7	65.0	2.2	0
子どもが外遊びなどすすんで運動するようになっている。	29.3	42.4	26.2	2.2

家庭の取組については、12項目中9項目で実現度が80%を超えていました。特に、「安全に気をつけて生活する」が最も高く、交通安全や、防犯・防災等を

意識して関わられていることがうかがわれます。次いで、「友だちを大切にし、仲よくする」「ありがとうの気持ちを大切にする」の項目で実現度が高く、人のより良い関わりを大切にされていることが分かります。一方で、最も実現度が低かったのが、「読書に親しむ」と「すすんで家庭学習をする」の項目でした。具体的には、「子どもがゲームをしたり、マンガを読んだりすることに夢中になり、なかなか読書に気が向かない」、「家庭で声をかけてもなかなか集中して学習をしない」といった意見がありました。

●家庭から見た子どもの様子●	実現度 (%)			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
子どもは、授業をよく分かっている。	18.2	66.7	13.5	1.6
子どもは、夢や希望をもって生活している。	23.8	61.2	14.5	0.5
子どもは、読書に親しんでいる。	28.1	36.9	29.2	5.8
子どもは、すすんで家庭学習をしている。	15.7	42.8	35.5	6.0
子どもは、友だちを大切にし、仲よくしている。	41.7	55.5	3.1	0.2
子どもは、自分のよさに気づいている。	14.3	62.6	22.5	0.7
子どもは、自分からすすんで挨拶をしている。	25.2	52.2	21.2	1.3
子どもは、ありがとうの気持ちを大切にしている。	27.9	61.4	10.0	0.7
子どもは、不安や悩みを抱えた時、誰かに相談している。	21.2	67.7	10.0	1.1
子どもは、きまりや約束を守っている。	20.7	63.3	14.5	1.6
子どもは、健康的な生活習慣を身につけている。	26.1	55.5	17.8	0.9
子どもは、安全に気をつけて生活している。	31.3	62.9	5.8	0.0
子どもは、外遊びなど積極的に運動している。	31.7	40.4	24.6	3.4

子どもの様子について見ると、やはり読書と家庭学習についての実現度が低くなっています。「読み聞かせをしたり、読むよう努力したりしても、本人の気持ちを変えるのはなかなか難しい。」「夕方宿題に取り組んでも、疲れていて嫌になり、途中で投げ出してしまう。結局、寝る直前になって、続きを取り組むことも…。」といったご意見もあり、子どもが読書や家庭学習を主体的に行い、習慣化していくことの難しさがよく伝わってきます。

また、「授業がよくわかっている」の項目では、約85%の家庭で評価されていますが、残りの約15%の家庭で「出来ていない」と感じておられます。学校は、今後さらに「みんながわかる授業」をめざして、授業改善を図るとともに、家庭学習につながる「学習の仕方や、学習への向かい方」等にも力をいれて取り組む必要があると考えます。

<教職員アンケート結果>

●学校の取組について●	実現度 (%)			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
子どもが夢や希望をもつようにしている。	12.0	60.0	28.0	0.0
子どもが読書に親しむようにしている。	25.0	50.0	20.8	4.2
子どもがすすんで家庭学習をするようにしている。	8.3	75.0	12.5	4.2
子どもが友だちを大切にし、仲よくするようにしている。	24.0	60.0	16.0	0.0
子どもが自分によさに気づくようにしている。	24.0	44.0	32.0	0.0
子どもが自分からすすんで挨拶するようにしている。	16.0	52.0	32.0	0.0
子どもがあがとうの気持ちを大切にするようにしている。	16.0	60.0	24.0	0.0
子どもが困った時、誰かに相談するようにしている。	12.5	54.2	33.3	0.0
子どもがきまりや約束を守るようにしている。	19.2	57.7	23.1	0.0
子どもに健康的な生活習慣がつくようにしている。	12.0	64.0	24.0	0.0
子どもが安全に気をつけて生活するようにしている。	20.0	68.0	12.0	0.0
子どもが外遊びなどすすんで運動するようにしている。	4.0	40.0	56.0	0.0
子どもに分かりやすい授業を行っている。	8.0	60.0	32.0	0.0
ホームページや学校・学年だより等で学校の様子を伝えている。	20.0	56.0	24.0	0.0
整理整頓された学習しやすい環境づくりをしている。	8.0	80.0	12.0	0.0

大規模災害に備えて、様々な状況を想定して行っているシェイクアウト訓練や避難訓練などの安全指導や、環境整備に関しては、学校全体で意識しながら取り組めているようです。

また、家庭学習の項目でも実現度が高くなっています。これは、児童アンケートと比べても、大きな差はありません。しかし、保護者アンケートの結果と比べると、かなりの差があります。つまり、子どもは宿題に取り組んではいるが、「すすんで」取り組むことには課題があるといえます。学校としてこの点を意識して、今後更に取組を行っていかなければならぬと考えます。

今回の教職員アンケートで最も、実現度が低かったのが、「外遊びなどすすんで運動する」項目の実現度です。全学年が実施した、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」及び「新体力テスト」の結果でも、本校児童の課題がみられました。部活動に参加したり、休み時間に外遊びをしたりする子どもたちだけでなく、すべての児童が、日々の休み時間や放課後などで、体を動かしたり、運動したりすることの楽しさを感じられるよう、学級や運動委員会の取組をより一層充実させていきます。

●学校から見た子どもの様子●	実現度 (%)			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来っていない
子どもは、授業をよく分かっている。	8.0	76.0	16.0	0.0
子どもは、夢や希望をもって生活している。	8.0	52.0	40.0	0.0
子どもは、読書に親しんでいる。	24.0	68.0	8.0	0.0
子どもは、すすんで家庭学習をしている。	8.0	72.0	20.0	0.0
子どもは、友だちを大切にし、仲よくしている。	28.0	68.0	4.0	0.0
子どもは、自分のよさに気づいている。	4.2	54.1	41.7	0.0
子どもは、自分からすすんで挨拶をしている。	8.0	48.0	44.0	0.0
子どもは、ありがとうの気持ちを大切にしている。	20.0	52.0	28.0	0.0
子どもは、不安や悩みを抱えた時、誰かに相談している。	8.3	66.7	25.0	0.0
子どもは、きまりや約束を守っている。	4.0	76.0	20.0	0.0
子どもは、健康的な生活習慣を身につけている。	0.0	80.0	20.0	0.0
子どもは、安全に気をつけて生活している。	4.0	84.0	12.0	0.0
子どもは、外遊びなど積極的に運動している。	4.0	44.0	48.0	4.0

教職員から見た子どもの様子で、最もよかつたのが、「友だちを大切にし、仲良くする」項目でした。友だちと仲良く遊ぶだけでなく、困っている友だちがいたらそっと寄り添い、優しく声をかける姿も見られます。また、本校がかねてより大切にしてきた、読書に親しむための取組が、朝読書や、休み時間の図書室の利用など、子どもたちの読書に親しむ姿となって表れていると感じます。

一方で、課題が見られたのは、「運動に親しむ」「すすんで挨拶する」「自分のよさに気づく」項目です。挨拶については、とても気持ちよく挨拶できる児童もありますが、なかなか自分から挨拶できなかったり、恥ずかしくて、声が小さくなったりする様子が見られます。「朱一の子たちは、気持ちよく挨拶する。」という地域の方々からの声もあります。今後そのような姿を、更に広げていけるよう、取り組んでいきます。また、子どもたちの自己肯定感を高めるため、日々の授業改善を行うとともに、子ども一人一人のよさを、教職員がしっかりと捉え、それを伸ばしていくことができるよう、保護者の方々と連携を密にしていきながら、取組をすすめていきます。



<子どもアンケート結果>

●低学年（1・2年生）●	実現度（%）			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
わたしは、授業がよく分かっている。	44.9	45.6	8.9	0.6
わたしは、夢や希望をもって生活している。	73.4	16.5	6.3	3.8
わたしは、すすんで読書をしている。	56.3	25.9	13.9	3.8
わたしは、すすんで家の勉強をしている。	48.7	28.5	18.4	4.4
わたしは、友だちを大切にし、仲よくしている。	74.1	15.8	8.9	1.3
わたしは、自分のよいところがわかっている。	50.6	33.5	11.4	4.4
わたしは、自分からすすんで挨拶をしている。	58.0	26.1	14.6	1.3
わたしは、心をこめてありがとうと言っている。	66.2	24.2	8.3	1.3
わたしは、困った時に、誰かに相談している。	55.4	24.8	14.6	5.1
わたしは、きまりや約束を守っている。	58.2	33.5	7.0	1.3
わたしは、早寝・早起き・朝ご飯など健康的な生活をしている。	39.9	36.1	20.9	3.2
わたしは、安全に気をつけて生活している。	72.0	19.7	7.0	1.3
わたしは、外遊びなどすすんで体を動かしている。	61.4	19.6	17.1	1.9

まず、低学年と中・高学年の児童に共通して実現度が高いのは、「友だちを大切にし、仲良くしている」の項目です。また、「安全に気をつけて生活する」や「きまりや約束を守る」の項目も評価が高く、安全や人権に関わる意識が、学年を問わず高いと言えます。しかし、困った時に、誰かに相談出来ない児童が、どの学年でも2割程度いることを考えると、表面的には分かりにくい子どもの悩みに早急に気づき、手立てを打つための取組が必要不可欠であると感じます。

次に、低学年と中・高学年を比較すると、中・高学年で6ポイント以上高くなっているのが「友だちを大切にし、仲良くする」の項目です。学年が上がるにつれて、自分のことだけでなく、まわりの友だちのことも考えられるようになる成長の表れだと感じます。一方で、15ポイント以上も下がってしまうのが、自己肯定感です。周りのともだちのことがよく見えるようになってくると、逆に自分の苦手なことや、うまくいかないことなどもわかるようになってくるのかもしれません。一人一人が、自分自身を受けとめ、自己実現に向かってがんばれるよう、寄り添い、一緒に取り組んでいきたいと思います。



●中・高学年（3～6年生）●	実現度（%）			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来っていない
わたしは、授業がよく分かっている。	36.7	50.5	11.3	1.6
わたしは、夢や希望をもって生活している。	55.2	27.6	13.2	4.1
わたしは、すすんで読書をしている。	41.2	32.1	20.8	6.0
わたしは、すすんで家の勉強をしている。	36.2	38.7	19.8	5.3
わたしは、友だちを大切にし、仲よくしている。	70.4	25.8	1.6	2.2
わたしは、自分のよいところがわかっている。	32.8	35.6	24.0	7.6
わたしは、自分からすすんで挨拶をしている。	41.8	40.3	13.5	4.4
わたしは、心をこめてありがとうと言っている。	49.5	38.2	9.1	3.1
わたしは、困った時に、誰かに相談している。	39.0	35.5	18.2	7.2
わたしは、きまりや約束を守っている。	40.6	50.0	6.9	2.5
わたしは、早寝・早起き・朝ご飯など健康的な生活をしている。	31.7	38.6	21.6	8.2
わたしは、安全に気をつけて生活している。	58.8	35.2	4.1	1.9
わたしは、外遊びなどすすんで体を動かしている。	50.5	24.5	17.2	7.8

●学校運営協議会理事会で出た意見より

- ・1年生がしっかりとあいさつできるようになってきた。
- ・子どもたちを6年間見守っていると、表情や友達関係の変化をみて、みんなで気にかけたいと感じる児童もいる。
- ・道徳科では、道徳性を数値で評価するのではなく、道徳の学習での学びの姿を文章で表されることが分かった。子どものがんばっている姿を認め、通知票で伝えることはよいことだと思う。
- ・体力の向上のために小さい時から体を動かすたくさんの経験が必要だ。
- ・子どもを学校や保護者だけでなく、地域や関連機関と一緒にあって、温かく見守り、支えていくことが大事。

＜おわりに＞

アンケートへのご協力、ありがとうございました。今回、皆様からいただいたご意見と集計結果をしっかりと踏まえ、学校教育目標「夢をもち、いのち輝く朱一の子」の育成を目指してさらに指導・取組の改善を行っていきたいと思います。今後も、ご協力・ご支援の程、よろしくお願ひいたします。